

## 暑熱対策AIカメラの活用について

工 事 名 令和6年度茶屋ヶ原地区災害復旧その4工事  
工 事 場 所 上越市茶屋ヶ原地先  
会 社 名 相村建設株式会社  
発 表 者 小山 剛

### 1. はじめに

本工事は令和6年1月に発生した「能登半島地震」に伴う、被災した「国道8号147.05kp（上越市茶屋ヶ原地先）」に於ける災害復旧工事である。

夏季の施工に於いてNETIS登録番号KY-240046-Aの暑熱対策AIカメラ「カオカラ」を活用し現場の安全性（熱中症対策）の向上を図った。

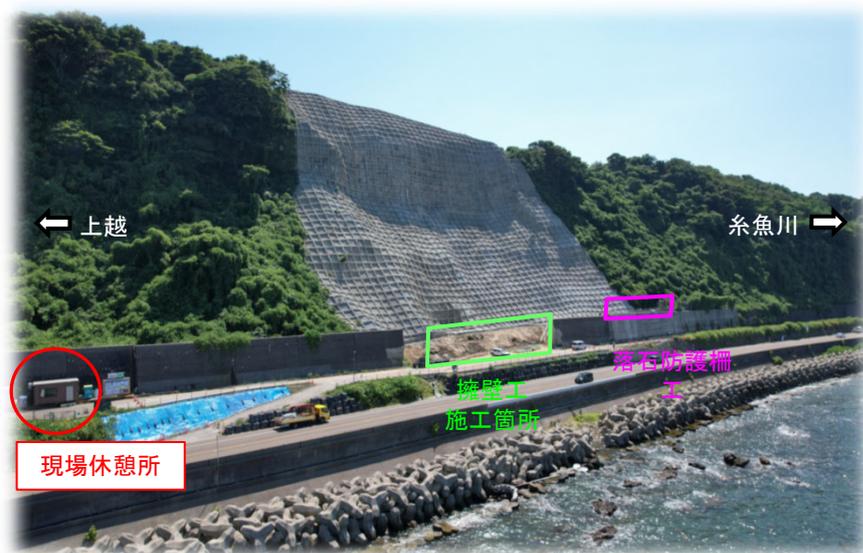
### 2. 概要（現況状況）

7・8月は落石防護柵工、擁壁工の施工となっていた。

施工箇所は一日中、日があたり暑熱環境となるため熱中症対策が課題となった。（写真-1）

熱中症対策管理として管理者の定期的な巡回や目視、声掛けで対応していたが併せて暑熱対策AIカメラを現場休憩所に設置し活用した。

写真-1  
（現場航空写真 7月撮影）



### 3. 方法

NETIS登録番号KT-240046-Aの暑熱対策AIカメラ「カオカラ」を現場休憩所に設置し活用した。



### 4. 結果

暑熱対策AIカメラ「カオカラ」を設置活用したことで判定結果により自発的な水分塩分の摂取、又、顔からわかる変化に気付くことで管理者への自発的な相談が行えた。

上記事項により結果、熱中症の発生無く夏季の施工を行う事が出来た。

### 5. 考察及びまとめ

暑熱対策AIカメラ「カオカラ」を設置活用したことにより作業員の熱中症への危機意識が高まり効果があった。

熱中症対策は避暑施設の設置等も効果はあるが、管理者及び作業員一人一人が熱中症への危機意識を持つことだと考える。その点でも暑熱対策AIカメラ「カオカラ」の設置活用は有効であったと思われる。